

第2章 各教科等における学習評価

1 (2) 中学校 国語

単元(題材)における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。それは国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら能力の定着を図ることを基本としているからである。そのため、年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように指導と評価を進めることが考えられる。ここでは、

第1学年「読むこと」

「つながりの中で」(展開や表現に着目して、物語の中での効果を考える 教材「星の花が降るころに」光村 1年)

の単元を例として、その評価例を示す。

① 単元(題材)の目標を作成する

年間指導計画に基づき、当該単元で取り上げる学習指導要領の指導事項を確認し、単元の目標を設定する。中学校国語科における単元の目標は、以下のように設定することができる。

「知識及び技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の目標・・・基本的に扱う指導事項の文末を「～できる」として示す。

「学びに向かう力、人間性等」の目標・・・いずれの単元においても当該学年の「学年の目標」である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示す。

このことを踏まえて、本単元の「単元の目標」を以下のように設定することができる。

- (1) 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

② 単元(題材)の評価規準を作成する

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」として作成する。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

当該単元(や題材)で育成する資質・能力と言語活動に応じて作成する。

具体的には、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価するため、下記③、④に示したように、特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。このことを踏まえて、①から④の内容を全て含め、単元(や題材)の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。なお、〈〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示し

たものであり、これ以外も想定される。

- ① 粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ② 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③ 他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④ 当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
i 比喩、倒置などの表現の技法を理解している。(1)オ)	i 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)◎	i ①積極的に③表現の効果について根拠を明確にして考え、②今までの学習を生かして④工夫された表現の効果について説明しようとしている。

* 単元の指導では、重点とする指導事項(評価規準)を明らかにして指導に当たる。ここでは、◎を付けた評価の観点が、単元の重点指導事項となっている(単元によっては、複数ある場合もある)。

* 「知識・技能」「思考・判断・表現」については、育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。ここであれば、「知識・技能」については[知識及び技能](1)オ、「思考・判断・表現」については[思考力、判断力、表現力等]C(1)エのうち、それぞれ本単元で取り扱う内容のみを取り出して作成している。

③ 指導と評価の計画を作成する

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階(時間)でどの評価規準に基づいて評価を記録するかを決定し、実際の学習活動を踏まえて評価方法を計画する。

時	主たる学習活動	評価規準(記録)	評価方法
1 ・ 2	○ 教材「星の花が降るころに」を通読し、物語のテーマ(「何の物語」であるか)と、そう捉えた根拠(内容や表現)について意見を述べ合う。 ○ 『「これは、〇〇の物語である」と題して、文章構成・展開・表現を基に作品の解説文を書く」という単元の言語活動の見通しをもつ。 ○ 新出漢字や難解語句の学習をする。	「知識・技能」i 「思考・判断・表現」i	ノート
3 ・ 4	○ 『「私」と夏実の関係(の変化)」を効果的に描いている文章構成・展開・表現、及びその効果について考える。 ○ 『「私」にとっての戸部君の存在(の意味)」と、それを効果的に描いている文章構成・展開・表現、及びその効果について考える。		
5	○ 改めて物語のテーマと、それを描く効果的な文章構成・展開・表現の効果について考え、作品の解説文「これは、〇〇の物語である」に書く内容を整理する。	「主体的に学習に取り組む態度」i	ワークシート
6	○ 「これは、〇〇の物語である」と題した作品の解説文を書きまとめる。	「思考・判断・表現」i	完成した作文学習のまとめ
7 ・ 8	○ 書いた文章を互いに読み合い、感想を述べ合う。 ○ 本単元の学習のまとめを書く。		

* 国語科の学習指導要領の各領域の指導事項は学習過程に沿って示されているが、領域の単元において毎回すべての指導事項について扱い、評価を記録する必要はない。当該単元の言語活動の特質に照

らして、扱う指導事項を精選して位置づける。

＊ ただし、当該単元で扱わなかった指導事項は、同一領域の他の単元において扱うようにし、年間を通して当該学年のすべての指導事項が扱われるよう指導・評価計画を立てる必要がある。

＊ 本手引き第1章で示したように、「単元の評価として記録に残す」場面を精選して計画を立てる。もちろん記録に残さない単位時間においても、学習状況を捉え指導に生かすことや、児童が自らの学びをふり返って次の学びに生かすための指導と評価は行う。

④ 実際の指導及び評価

評価計画に基づいて単元の指導・評価を行うに当たっては、各時間の実際の学習活動を踏まえて、「Bと判断する状況の例」及び「Cと判断する状況への手立て」を想定する必要がある。

ここでは、本単元の評価規準について、各観点一つずつその例を示す。

単元の評価規準	評価方法	Bと判断する状況の例	Cと判断する状況への手立て
「主体的に学習に取り組む態度」 i	ワークシート	・作品中のさまざまな「文章構成・展開・表現の工夫」に着目したうえで、その中から自分が捉えたテーマの解説に適したもの（効果的なもの）を考え、選び取っている。	・作品を『『何の物語』と捉えるか』を確かめたうえで、第3・4時の学習記録（ノート）を見返させる。
「知識・技能」 i	ノート	・作品中の比喩、倒置表現について、その効果を適切に書きまとめている。	・比喩や倒置法を用いない書き方を示し、両者を比較させる。
「思考・判断・表現」 i（7・8時）	完成した解説文 学習のまとめ	・自分が捉えた作品のテーマを「これは、〇〇の物語である」と明確にし、本文中の表現や文章構成・展開を適切に引用して解説文に書きまとめている。	・単元の学習を通して印象に残っている表現や、文章構成・展開の工夫を想起させ、テーマを再度明確にする。

＊ こうした状況を見取るために、ノートへ記述内容や記述の仕方、ワークシートなどの学習形態を工夫する必要がある。例えば本単元の「主体的に学習に取り組む態度」の評価であれば、「作品中の工夫された文章展開や表現のうち、（自分が捉えた）物語のテーマを説明するにはどれが効果的か」を検討し、書く内容を選び取る過程が表れるようなワークシートを作成するなどの工夫が考えられる。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

適切な評価の下に得た、児童生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられるが、総括の時期や方法には様々な考え方があり、各学校において工夫することが求められる。

ここでは、単元で総括する場合を例として示す。

本単元であれば、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」については、単元内の評価の記録は一つであるため、それがそのまま単元の観点別評価となる。

「思考・判断・表現」については二つの記録があるため、総括した評価を単元の観点別評価とする。このとき、例えば二つの記録が「A」と「B」などのように評価が揃わない場合もあるが、学習活動の内容や評価のタイミング（単元の前段、後段）等を踏まえて、適切な根拠をもって総括する必要がある。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)